

黒崎事業所のTPM活動（継続賞）

1. はじめに

当事業所は、現三菱化学(株)黒崎事業所殿を発祥の地とし、化学プラントの建設、定期修理および日常メンテナンスを中心に事業展開してきた。これに加え半導体、都市社会開発等多くの新しい分野にも取り組んできた。TPM活動においては、2000年に社長賞*1、PM優秀エンジニアリング賞*2を受賞した。このたび継続した活動が社内的に評価され、「継続賞」*1を受賞することができたので、その概要を紹介する。

2. 継続賞受賞までの経緯

1997年、当社を取り巻く環境は工事量の減少、受注競争の激化等非常に厳しいものがあり、このままでは諸情勢に対応しがたいとの考えから、体質強化を図るべくTPM活動に取り組んだ。

図1に示すように同年5月にTPM導入宣言、11月にTPM活動のキックオフを行い、本格的に活動を開始した。2000年3月に社長賞*1、9月にPM優秀エンジニアリング賞*2を受賞後、翌2001年にはパートのキックオフを行った。その後の2年間の活動（前半）により、2003年にPM優秀エンジニアリング賞・継続賞*2を受審予定であったが、社内事情により中止となった。また同時に外部コンサルタントによる指導から社内指導に切り替えた。

その後4年間（後半）に渡り、新たな気持ちで活動を継続し、2008年3月に全社に先駆けてTPM継続賞*1を受賞した。

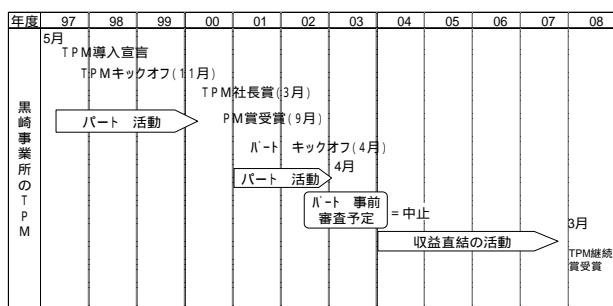


図1 黒崎事業所のTPM活動の経緯

3. 活動内容

TPM推進組織は、前半は7専門部会、後半は6専門部会とし、職制グループは技術・品証Gr、管理・調達Gr、工事課4Gr（製配Gr、仕上Gr、電溶Gr、計装Gr）の計6Grで構成し、活動を継続した（図2）。

運営の基本的な考え方は、パート活動の維持・継続、そして新たな活動の視点で、「安全・品質を基盤にお客様から信用・信頼される事業所」、「継続して常に利益の出せる安定した事業所」を構築することを目標に活動した。

図3に示すようにパートでは、「人の意識の改善と仕事の仕組みの改善」をねらいとし、パートまで通した継続活動とした。さらにパートではミニマムコスト、業務サイクルの効率化を加えた活動を展開した。

また、当事業所も高齢化が進み団塊世代の退職も始まっている。その影響を最小限に抑えるために組織の若返りを行い体制の整備を行うとともに、若手社員への教育（技能伝承）にも力を入れ、早期戦力化を図った。

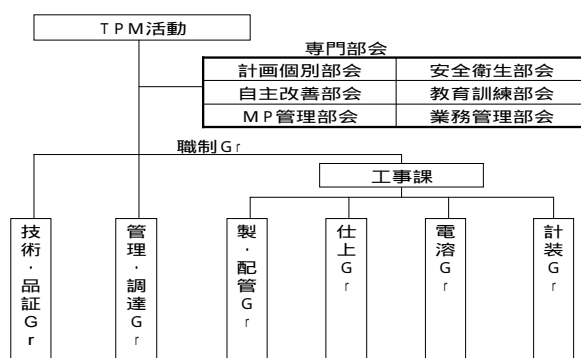


図2 TPM活動の組織

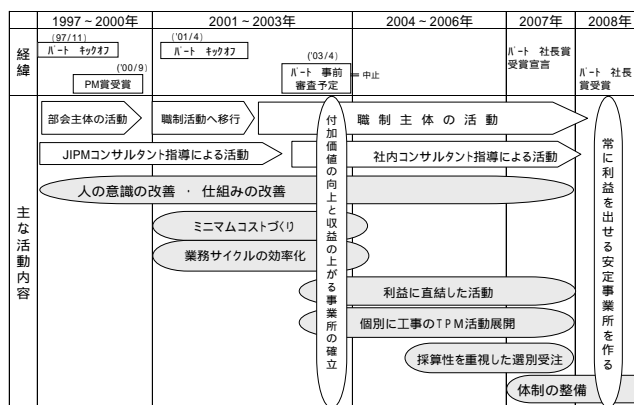


図3 主なTPM活動内容

4. まとめ

2007年度の目標は全て達成することができ、また、安全成績も8年連続無災害を継続し、現在に至っている。その要因としてパートから継続してきた人の意識と仕組みの改善が定着してきたことが挙げられる。

今後は、これまでの活動を継続・発展させ、CS・ESの向上を踏まえた「真に信頼される事業所」の基盤を確立していく所存である。

矢野 友幸（第二事業本部 黒崎事業所）

（注記）

*1 社内審査・表彰制度

*2 (社)日本プラントメンテナンス協会による審査・表彰制度